

# Radio Days

## ラジオデイズ

声には、人の体温があり物語がある



November Edition  
2009, vol.31  
Free of charge

12

月刊「ラジオデイズ」12月号（通巻第31号）

2009年11月28日発行

【発行人】赤塚祐一郎

【編集人】大森美知子

【発行所】株式会社ラジオカフェ

東京都新宿区新宿1-6-5 シガラキビル6F

Email : info@radiodays.jp FAX : 03-5356-8281

http://www.radiodays.jp

この人の声が聴きたい ● 12月

山上路夫さん（作詞家）

## その唄を口ずさめば、いつもあの時代がよみがえつてくる

私の育った昭和三十年代から今に至るまでの折々の風景（それは個人的な出来事だったり、社会的な事件だつたりするのだが）の背景にはいつも山上路夫の作詞した唄が流れている。

調べてみて、あらためてその作品リストの充実ぶりに驚いてしまった。それはほとんど、昭和歌謡史そのものといつてもよいほどの量であり、その多くの印象的なフレーズを団塊世代以降の人々は、生活のふしぶしで口ずさんできたはずである。

並べて見よう。「翼をください」「ひなげしの花」「二人でお酒」「学生街の喫茶店」「瀬戸の花嫁」「世界は二人のために」「甘い生活」「私鉄沿線」「禁じられた恋」「岬めぐり」「夜明けのスキヤット」「生きがい」。挙げていけばきりがない。

驚くのは唄の数の豊穣さだけではない。唄がカバーしている「世界」の多種多様、そのバラエティーに舌を巻く。

いつたい、一人の人間にこれほど多様な世界を描き出すなんてことが可能なのか。山上路夫には、マンネリズムとか惰性といったものは無縁なのか。ひとつひとつ唄のなかに、どんな体験が潜んでいるのか……。

友人の紹介もあって、この山上さんと実際にラジオでお会いすることになった。あれだけのヒット曲を手がけてきた、日本歌謡界の大御所がいらっしゃるというので、スタッフは少し緊張気味であった。実は、この日の取

録はもつと前に行うはずであったが、体調をくずされており延び延びになっていたのである。わたしの中にはなんとなく、森進一を叱りつけた、頑固一徹、いっこく親爺の川内康範さんの面影があつたのかもしれない。

「いたい、どんな人なんだろうね」

「怖ですね」

そんな会話をしているところに、電話が鳴った。スタジオの場所が判らないので迎えに来てほしいとのこと。私は椅子を蹴ってスタジオを出たが、「しまった、俺は顔を知らないんだ」と気がついたときには、待ち合わせのホテルのロビーに駆けつけた後であった。ロビーにはそれらしい怖い顔の初老の紳士が何人か人待ちをしており、片つ端から声をかけたのだがすべて空振り。あたふたしてスタッフに戻ると、そこにはすでに山上さんが到着していた。

実際にお会いした山上さんは、温厚なやさしい方で、スタッフとほつこりとした雰囲気で談笑していた。収録は実に楽しいものになつた。その柔らかい声からは、驕りも高飛車なところも聞かれることはなかつた。どこにでもいる、しかし何事かを成し遂げた人でなければ発することできない、普通でいることの奥深さ、淵みを感じさせる。収録後、「ずっとお話を聞きたいですね」とスタッフの一人が呟いた。私は同意し、唄作りの職人の、



ラジオデイズは、文芸・対話・話芸を三本の柱に、声のもつ魅力に特化した音声コンテンツを制作し、ダウンロード販売するWebサイトです。飘逸で含蓄のある隨筆、瑞々しい感性的な横溢する詩歌や小説の朗読、個性的な対話者たちの真摯な言葉の応酬から生まれる知的交歓、粹と人情の落語や講談などなど、大人のお楽しみにたえる魅力的なコンテンツが満載です。

## ただいま入会随時受付中！

会員（会費無料）になれば、期間限定の無料コンテンツがお楽しみいただけます。サイトでは、声の魅力を凝縮したコンテンツのすべてが試聴できるほか、演者のプロフィールやコラムなど読み応えも十分です。どうぞお立ち寄りを！

<http://www.radiodays.jp>

### ＜対話・放談＞

人気メルマガでおなじみ、田中はこう読み――I・II』、斉家・瀧川鯉昇師匠の癒し系連続トーク『鯉昇の昼夜まくら』、ムッシュかまやつさんや、最後のインタビューになった故加藤和彦さんなど、ミュージシャンにお話を伺う『Music Talk』、義尚中さん、福岡伸一さん、町山智浩さんなど知的なゲスト満載のラジオ番組の番外編『ラジ街プラス』が好評。さらに、慶應MCC開催の『夕学』のほかから、各界の第一線で活躍する文化人にによる講演を厳選してお届けしています。インド哲学の碩学・中村元先生の名講演も配信開始しました。

### ＜文芸＞

作家の関川夏央さん、小沢昭一さん、詩人清水哲男さんなど多彩な解説者を迎えた「声のエッセイ」コレクションが評判。また、「声の詩集」シリーズでは、女優丸せつこさん朗読、詩人正津勉さんナビゲートの『詩人の愛』I・IIをお届け。女優有馬稻子さん朗誦の『水仙』や、さらに本邦初となる落語家・入船亭扇辰師、柳家三三郎朗説による江戸弁で聴くゴーリー『外套』(鼻)も発売中。そして、太宰治生誕百年のいま、松平定知さん、山根基世さんなど熟練アナウンサー朗説の『人間失格』『斜陽』他も聴きこたえ十分です。

### ＜話芸＞

ラジオデイズ収録の新鮮なオリジナル音源約三百本をお届け中。時代に磨かれた古典を自家蔵庫中に現代に演じきる嘶家たち。そして、時代の流れから湧き出た、かつて語られたことのない新作に録を削る嘶家たち。ライブ音源だけに、期一会の嘶に出会います。不定期ですがラジオデイズイチオシの嘶家さんの演目を無料ダウンロードにて提供していきますので、毎日覗きにきてみてください。まずは、試聴ボタンを。

## 二遊亭白鳥独演会

# 明鳥の話

連載第33回 本田久作

本多久作

である。

嘗家が努力を怠っているわけではない。『子ほめ』に対する新工夫は今なお途切ることなく続けられている。くすぐりだけ取り上げても、あの有名な「ジャワスマトラは南方だ」というくすぐりも戦後になってからつけ加えられたものだというし（まあ、そりやそうだ）、先日は赤ん坊とお爺さんを間違えるくだりで肩に彫り物がしてあるからおかしいと思ったんだよ」というこれまで（少なくとも私は）聞いたことのないくすぐりを聞いて大笑いした。「久しぶりじゃないよ、昨日湯屋で会つたじやないか」の場面で「お前だろ、私のパンツを穿いて行つたのは」という新しくくすぐりを入れる嘗家もいる。このようにそれぞれの演者がさまざま工夫を凝らしているにも関わらず、それでもなお『子ほめ』は「前座から真打まで誰もが演る『子ほめ』であつて、「誰それの『子ほめ』もしくは『子ほめ』なら誰それ」という言ひ方をされたことは一度もない。

『子ほめ』のような誰もが演る嘗を十八番にするほど入れ込むのは無駄だ、と考えるのは間違いである。同じように誰もが演る前座嘗の『道灌』を小三治は得意にしているし、さらに驚くべきことにこの嘗をトリでかけたりもしている。おかげにオチまでやらずに途中で切つて冗談オチで下りたりもする。トリで『道灌』を演るのは気障と言えれば気障だが、ならば同じことを小三治以外の誰が出来るのかと考えると、これはやはり小三治の芸に脱帽するより他ない。私は小三治が『道灌』でやつているのと同じことを他の誰かが『子ほめ』や『たらちめ』でやらないかと期待している。そしてそれは『らくだ』や『芝浜』でトリをとるよりもはるかに難しいということを承知している。それでも私はそういうネタをトリで聞いてみたい。トリならばいつでもどこでも大作をかけるのが当たり前になつてゐる最近の風潮が私にはいささかしないのだ。最後に客を感動させて帰らそうともくろむ嘗家も野暮だが、最後は感動してから寄席を出たいと思っている客も馬鹿である。途中で重く、最後は軽く終わる方がいつも粹ではないか。

## 二遊亭白鳥

すべての落語は新作として生まれ、生き残ったものが古典になる……。時代の流れから生み出された一席の嘶を、口演を重ねながら書き換えていき、自家樂籠中に演じきる現代の嘶家たち！ 古典を腹に飲み込んだうえに、現代人をうならす工夫を凝らした三遊亭白鳥の高座は、いまもつとも注目されている。次々と繰り出される創作落語は、たしかに構成力に裏打ちされていて、漸進的に横滑りしていく展開に翻弄されつつストンと腑に落ちるのが白鳥流である。いざ白鳥ワールドへ……。



## 二遊亭ぬう生

三遊亭円門下。平成十三年、真打昇進。創作した落語は百本を超えて、その類稀な創作力と表現力で、躍進作落語の旗手となつた革命児。作り手ならではの観点から換骨奪胎した古典にも定評がある。創作落語協会「SWA」の一員。昨年は創作落語集「砂漠のバーの止まり木」を刊行。稀代のストーリーテラーとして、いまのりに乗つていている。



先代の柳朝が『たらちめ』の翌朝の場面について、前の晩が初夜だったのだから女将さんの方にそれらしい恥じらいを出さなければならぬ、というようなことを言つてゐる。この逸話が落語ファンによく知られているのは、嘶家はそこまで考えて落語を演つてゐるのかという驚きと、これを言つたのがどちらかというと荒っぽい印象の柳朝であったということが大きい。柳朝にその演出ができるのかといふれば、おそらく出来なかつただろうという気がする。

柳朝にそう演じるだけの腕がなかつたと見くびつてゐるわけではない。わずかな細部でやら変更できないほど『たらちめ』という嘶が完成されていることを言いたいのだ。

これは何も『たらちめ』に限つたことではない。大概の前座嘶は作品としてほとんど完成の極に達している。そして、完成している嘶には手のつけようがない。わかりやすく言えば、『らくだ』を十八番にしている嘶家はいるが、『子ほめ』を十八番にしている嘶家はない、といふことだ。一つの嘶を自分の十八番にするためにはその嘶に他の嘶家には真似の出来ない何かを注ぎ込まなければならない。ところが、『子ほめ』は嘶自体の完成度があまりにも高いので、演者が少々の工夫を凝らしたところで、その人ならではの『子ほめ』にまでは至らないの

○ほんだ・きゅうさく  
一九六〇年大阪府生。落語作家。一〇〇一年の「仮の遊び」が国立演劇場台本募集佳作賞以来、落語、漫才など新作台本関係の賞を毎年総ナメの業界注目の新進作家。主な受賞作「玉手箱」（国立演劇場台本募集優秀作）、「儀の葬式」「按摩の夢」「幽霊薔薇」（いずれも落語協会優秀賞）など

## 私の『たらちめ』参拾壹

### 壱 『たらちめ』

師匠円窓から前座の頃教わりました。登場人物が多く難い嘶で、真打になつてどうにか演じ分けられるようになりました。以前、新妻の言葉遣いが丁寧過ぎることを言い忘れ、気づいて慌てて辻褄を合わせたものの、しどろもどろになつて冷や汗をかいことがあります。

### 弐 『火事息子』

二つ目の頃、志ん朝師匠のお供で大須演芸場に行つたときのこと、志ん朝師匠がマクラを喋つたとき、上手から白い煙が。舞台袖の消火器が倒れたのですが、一時は場内騒然。その後演じられたのが『火事息子』でした。ネタ出しのない会でしたので、志ん朝師匠の咄嗟の判断でこの嘶を選んだようになりますが、実は志ん朝師匠はこの嘶をやることを演劇前に楽屋で話していました。つまり不幸中の幸いだったのです。志ん朝師匠の思い出とともに、忘れられない一席です。

### 弐 『居残り佐平次』

一番好きな嘶です。佐平次は粹で親孝行な憎めない悪党で、なんとも痛快です。二つ目になつて間もない頃、勉強会で出しましたが、私には太刀打ちできない大物でした。いまだに納得のいく出来はなく、憧れの嘶です。

# こみちが に行けば



女流二ツ目の修行日乗(30)

柳亭こみち



れませんね。あなたは自分の体と心に鞭打って修業してゐるんでしょう。その悲鳴が胃に来たんです。本当に鍛錬された体と心であれば今の生活が当たり前であるはず。健康を害うこと自体、修業が足らない現れですよ」。

まったくその通りだと、骨身にしました。

思い切り裏切られることのたとえ。講談「伊賀の水月」で、悪玉の桜井兄弟が、竹内玄丹という武芸者に依頼して、主人公・荒木又右衛門を潰そうと図るが、もろくも失敗。その際、あてがはずれ、ガツカリした兄弟が口にする。

正法に不思議なし

社会人生活を経て、平成15年柳亭泰路に入門。18年11月二ツ目昇進。趣味は長唄。特技は日本舞踊、呂裏流名取(吉裏春美)。落語協会野球部。

連載第31回  
**信、心**

味な脇役・話芸のきまり文句

松井高志



打上げの席でテーブルからはみ出そなほどの料理。出演者はみんな、楽屋のお弁当をいただき満腹。誰もが話している。「こんなにたくさん誰が食べるんですか」「そりやもちろんこみちが。食べるのも修業だよ」。死に物狂いで食べ続け、何度もトイレに吐きに行った地獄の打上げの記憶は薄れない。

無理が祟って前座二年目、胃、食道、十二指腸がイカれてしまった。

修業中は朝八時に師匠宅へ行く。前座会(太鼓の稽古会)の日は七時、師匠が午前中から仕事の日は六時だ。「女だから甘やかされた」と思われるのを嫌う師匠だが、胃袋事件への特別処置として当座の十時出勤が許された。毎朝病院へ点滴を受けに。お粥しか受けつけない体で駆けずり回っていたら、二週間で八キロ痩せた。師匠は「回復するまで打上げは出なくていい」とも。

嘔家生命を断たれてなるものか。歯をくいしばって点滴生活を1ヶ月、薬を八ヶ月飲み続けてなんと正常な胃を取り戻した。クビにならずに済んだのも、すべて師匠の恩情のお陰。

医者に言われた。暴食だけが原因じゃないかもし

仮頬んで地獄へ落ちる

古典の落語や講談には、神仏にまつわる言葉もずいぶんたくさん出てくる。講談の名僧伝のたぐいを除いても、特定の宗派の宣伝を意図したのではないかと思われるようなネタもある。ただ、一般には、話芸で使われる信仰系のきまり文句は、どこか信仰のいちばんひたむきさを斜めから眺めて揶揄したようなトーンのものが多いようだ。

朝な夕なの神信心もお前に御怪我のないやうにみたいのがいいじゃないか、と言う。これに長屋の住人は、

汽車の窓から覗いて見たら電信柱が飛んで行くという迷作を返している。都々逸や粹な遊び事にあまり関心のない筆者は、はつきり言つて後者の方が好みだ。こういうのを、

縁なき衆生は度し難し

などというのだろう。

●まい・たかし

一九六〇年愛知県生。月刊誌編集者を経てフリーライター。著書に『人生に効く! 話芸のきまり文句』(平凡社新書)、『ソンドク 難読漢字曲習帳』(パラゴン)『江戸に学ぶビジネスの極意』(アスベクト)など。『話芸のきまり文句』辞典サイトは <http://www.radiodays.jp/cocolognity.com/>

**microSD版  
ラジオディズギャラリー**

「語り」を持ち歩こう!

いま旬の嘔家の息づかいもリアルな必聴落語の数々、現代がよくわかるエッジの立った国際時事解説がこんな小さなカードにみっちり満載です。

・落語永久保存30選 合計収録時間:約20時間09分 ¥9,900.-	・爆笑演芸会33選 合計収録時間:約18時間24分 ¥9,900.-
・特選現代落語35選 合計収録時間:約14時間11分 ¥8,800.-	・田中宇の「世界はこう読め!」 合計収録時間:約11時間27分 ¥3,900.-

**たとえば...**

**発売中**

ラジオディズギャラリー入り  
microSDカード

microSDカードが使える携帯音楽プレーヤーでお手軽に楽しめます。  
パソコンで聴くには、カードリーダーをご使用ください。※携帯電話では再生できません。

Voice-Trek DS-750

お問い合わせ : (株)ラジオカフェ  
<http://www.radiodays.jp/>  
メール:info@radiodays.jp Tel.03-3341-1230

## 「鉄博寄席」(第1回) オリィンパスモビーブレゼンツ

【会場】鉄博ホール(鉄道博物館内/大宮)  
【木戸銭】無料(鉄道博物館入館料のみ) 要予約  
【時間】午後2時開演(午後1時30分開場)

● 2010年1月9日(土)

柳家小ゑん・古今亭駒次  
三遊亭遊雀・古今亭菊之丞

霜月のオリィンパスモビーブレゼンツ  
柳家喜多八独演会  
日)、前身のシンクル寄席時代から数えて寿  
第三〇回記念、出演はラジオデイズ最多作品  
数を誇る柳家喜多八師匠しかおりませぬ。  
開口一番は、扇辰師匠の一番弟子の入船亭  
辰じんさんで、ネタは「垂乳女」。よく通る  
大きな声と師匠譲りのきつちりした芸には期  
待できます。

さて初っぱなから喜多八師匠が氣怠く登場、

一変して師匠の軽妙洒脱さが笑いを誘うネタ

は「漫の幫間」。調子のいいたいこもちが客に

たかろうと思ひきや、淒腕の客に一杯食わさ

れるお馴染み滑稽噺で、ディープな古典落語

ファンを笑わせます。笑わぬと思うそばから

笑い出し。さつそく喜多八術中に嵌つてしま

いました。

お次は本日のゲスト、若手ナンバーワンの

呼び声高い春風亭一之輔さん。季節柄ネタは

「敷入り」で熱演です。奉公に出した息子の

初めての里帰りを待ちわびる父親の心情が涙

を説いています。

ラジオの街で逢いましょう  
オリィンパスモビーブレゼンツ  
「フジテレビ目玉名人会」(第7回)  
古今亭菊之丞・三遊亭円丈  
\*トーキーあり。司会・塚越孝十女子アナ  
〔会場〕フジテレビ・マルチシアター(台場)  
〔木戸銭〕2800円(前売2500円)  
〔時間〕午後4時開演(午後3時30分開場)

● 2010年2月27日(土)

古今亭菊之丞・三遊亭小田歌

ラジオデイズでは、声と語りの魅力を求めて、深夜のラジオ番組も  
制作放送しています。お相手は、ラジオデイズプロデューサーの平川克美、菊地史彦、伊藤博、大森美知子が務めます。これまでの放送分は、ラジオデイズ  
サイトにてストリーミング放送中。さらに、ボッドキャストでも配  
信中です。どうぞ真夜中の語らいに耳を傾けてみてください。

今後の放送予定 (深夜のお客様)  
<http://www.radiodays.jp>  
インターネット毎週日曜日の深夜23時から23時半まで。

12月6日 南仲坊(イラストライター)  
13日 国本武春(浪曲師)  
20日 小黒一三(月刊「アートコト」編集長)  
27日 小池昌代(詩人・作家)

## 「声」と「語り」をダウンロード! 今が旬の音声コンテンツ満載 <http://www.radiodays.jp>

今最もブッキング困難な役者を揃えた特別対談。  
絶妙な話芸と目から鱗の文化対談をお届けします。

### ● 戦後落語論

新作落語の旗手、そして教祖的存在である三遊亭円丈に、新進の落語作家本田久作がからむ。落語ファン待望の新作落語黎明期の真相話が炸裂。



### 三遊亭円丈

本田久作

高橋源一郎



小池昌代

養老孟司



内田樹

### ● 戦後詩人論

戦後作家の中心的存在であり鋭利な批評家でもある高橋源一郎が、生粋の詩人にして川端康成賞の小説家でもある小池昌代と現代詩について話し合う。



高橋源一郎

小池昌代

### ● 戦後マンガ家論

脳生理学者であり京都漫画ミュージアム館長でもある養老孟司と小林秀雄賞受賞の現代思想家内田樹。マンガに一家言あるこのふたりが存分に語り合う。



内田樹

そのほか、面白くて物凄い、朗読や落語がいっぱいです。ラジオデイズサイトによこそ!

\*ご購入や無料ダウンロードには会員登録(無料)が必要です。

新宿御苑沿いの遊歩道を前のめりになつて歩く人々の足元で落ち葉がガサゴソ音を立てています。師走の声を聞くとにわかに気がせいてきますが、こんなときこそ心にゆとりをもちたいものです。年末年始にむけてラジオデイズでは、録りたての落語や講談、みちた対談や講演のほか、在りし日の遠藤周作、開高健、宇野千代の語りなど、心に触れる声のコンテンツをご用意しています。

## 「オリィンパスモビーブレゼンツ」携帯用特別コンテンツ

モビーブレゼンツでは、モビーブレゼンツラジオデイズ落語会にご出演いただいた演者さんの情報や音源、最新のラジオデイズイベント情報が携帯電話からお楽しみいただけます。



p@mobee.jp

### バーコードで簡単アクセス!

左のQRコードを携帯のカメラで読み取り、メールを立ち上げて撮影写真を添付し送信。  
※ドメイン指定受信の設定をされている方は、mobee.jpを追加してください。



### Mobee(モビー)とは?

オリンパス(株)とホスティング・アンド・セキュリティ・インクの共同開発による、携帯サイト作成ツールと先進の画像認識技術によるサイトアクセス方法を月あたり263円~という低価格でご利用いただける携帯サイト作成サービスです。

個人の方から法人のお客様まで自分専用の携帯サイトを簡単に開設することができます。用途に応じて、クーポン作成やメールマガジンなどのプランもご用意しました。お申し込みは、PCから<http://pdh.mobee.jp>にアクセス!

お仲入りの後、トリはもち喜多八師匠。ネ

タは師匠お得意の大名跡から「盃の殿様」。吉原の花魁に一目惚れしたウブな殿様、参勤交代のお国入りとなります。家中で一番の早足に盃を託しますが……。沢山の人物がそれぞ個性豊かに登場してまるでコメディ時代劇を見るかのように楽しめました。

古典落語は生きていて現代人の心も大いに議論を惹き、今日もまた実証してくれました。

古来から落語は生きていて現代人の心も大いに議論を惹き、今日もまた実証してくれました。

落語会であります。もちろん芸の力の不思議さ偉大さも実感させてくれましたよ。

(ラジオデイズ寺和尚)

お仲入りの後、トリはもち喜多八師匠。ネタは師匠お得意の大名跡から「盃の殿様」。吉原の花魁に一目惚れしたウブな殿様、参勤交代のお国入りとなります。家中で一番の早足に盃を託しますが……。沢山の人物がそれぞ個性豊かに登場してまるでコメディ時代劇を見るかのように楽しめました。

古典落語は生きていて現代人の心も大いに議論を惹き、今日もまた実証してくれました。

古来から落語は生きていて現代人の心も大いに議論を惹き、今日もまた実証してくれました。

落語会であります。もちろん芸の力の不思議さ偉大さも実感させてくれましたよ。

古来から落語は生きていて現代人の心も大いに議論を惹き、今日もまた実証してくれました。

落語会であります。もちろん芸の力の不思議さ偉大さも実感させてくれましたよ。